



丹沢大山 クリーンピア21

会報
第19号
平成24年9月15日発行



相模原会場



伊勢原会場

平成二十四年十月二十日(土) 秦野市でのイベントを皮切りに、今年も丹沢大山クリーンキャンペーンがスタートします。今年の中央会場は十月二十一日(日)の清川村となっております。

第35回クリーン キャンペーンが 開催されます

県内七市町村に各会場を設置し、キャンペーンを実施します。紅葉の見ごろを迎えるこの季節、登山やハイキング、川遊びなど自然を楽しむ方々が大勢いらっしゃいます。自然を美しく保存することに関心が高ま

厚木会場



日時	主催者	会場	連絡先
10月20日(土) 8:30~	秦野市・他地域団体	ヤビツ峠登山口(バス停)及び大倉登山口(バス停)	秦野市商工観光課 0463-82-9648
10月21日(日) 8:30~	[中央会場] 清川村・他地域団体	村内村県道沿い、河川沿い	清川村産業観光課 046-288-3864
10月28日(日) 9:00~	山北町・他地域団体	丹沢湖・河内川周辺	山北町環境農林課 0465-75-3645
11月3日(土) 9:00~	伊勢原市・他地域団体	大山登山口	伊勢原市商工観光振興課 0463-94-4711
11月3日(土) 9:30~	厚木市・他地域団体	市内ハイキングコース	厚木市生活環境課 046-225-2750
11月11日(日) 8:30~	相模原市・他地域団体	相模原市緑区鳥屋地区	相模原市津久井環境課 042-780-1404
11月11日(日) 9:00~	松田町・他地域団体	松田町寄中津川周辺	松田町環境経済課 0465-83-1228

る一方で、心無いマナーの悪さが目立つこともあります。クリーンキャンペーンを通して、一人でも多くの方に、ゴミ問題、自然環境を守ることの大切さ、マナーを守ることの必要性などをお伝えしていきたいと思っております。

●ボランティア活動団体の紹介 神奈川県勤労者山岳連盟 の自然保護活動



神奈川県勤労者山岳連盟(県労山連盟)は一九六八年に、国民の登山要求の高まりの中で、登山界の大衆化と遭難の一掃という斬新な主張を掲げて決成されました。登山が自然をフィールドとするスポーツである以上、常に自然との共存共生や遭難事故防止の課題を伴っていると言えますが、自らの登山技術や知識を高めると共に、登山活動の一層の充実と発展を目標としています。神奈川県勤労者山岳連盟の現在会員

数は六一八名です。加盟団体は二十の会、クラブが加盟しています。ここ数年は高齢化が進み会員数の減少傾向にありますが、若人を組織する会では会員増の傾向もみられます。県労山連盟では遭難対策部、救助隊、教育部、そして自然保護委員会があります。■自然保護活動



「山からゴミを無くそう」をモットーに自然保護委員会が、主体となって毎年五月に県等の後援も受けながら、一般の県民にも呼びかけて、一九七八年から丹沢大山一斉の清掃登山(クリーンハイイク)を実施しています。クリーンハイイクの取り組みも三〇年ほどの歴史を重ね(雨天時は、林道の清掃のみに変更)、今年度も「第三十五回丹沢クリーンハイイク」を実施する事ができました。始めた頃は表根、大倉尾根にも大量のゴミがありました。また、山小屋がある所と、過去に山小屋があった所の塔ノ岳広場真下のオバケ沢、新大日茶屋東側の沢

二ノ塔の小屋跡、大山表参道十六丁目(追分)茶屋跡などに大量のゴミがあり、数年がかりで毎年ゴミを下ろしてきました。さすが近年は大量のゴミが集中している所は少なくなりました。最近では、大山から不動尻方面下山途中にあった飯場跡の大量のゴミも殆んど回収できましたが、機具など使わないと回収できない大型ゴミは放置したままになっています。また、登山道のゴミは減ってはいますが、大山直下の急斜面等、ロープを使わないと回収できない様な危険箇所には未だゴミが沢山あります。啓発活動を行いながら丹沢に「ゴミが無くなるまで」は、続けなければならない状況です。「丹沢の水は安心か?」素朴な疑問をきっかけに始めた水質調査は、クリーンハイイク実施日の前日に丹沢の沢や、水場の水の大腸菌検査を始めてか

ら二十一年がたちました。検査結果は天候等にも影響されるので、毎年検査をし続けています。これからも丹沢の水を見守り続けていく為に継続していく必要があります。また、ここ数年は登山道の清掃、水質調査以外に登山道整備等にも取り組んでいます。これらの活動が少しでも丹沢の再生、復元につながる事を願って活動を行っています。(自然保護委員 大用ユキ子)

編集後記

週末になると、年齢を問わずリュックを背負った楽しい登山者をよく見かけます。山は多くの人々に賑わっているのだと容易に想像できます。気軽に楽しむ登山を通じて、自然への関心を高め、この緑を守っていく。山をきれいにしようと感じてもらえれば…。美しい丹沢大山を楽しんでもらうため「クリーンピア21」では今後もゴミ持ち帰り運動を推進し、美化意識の普及啓発に取り組みしていきます。

丹沢大山クリーンピア21
事務局 神奈川県自然環境保全センター
自然保護公園部自然保護課
神奈川県厚木市七沢六五七
電話 046-248-6682



丹沢大山クリーンピア21は、丹沢大山国定公園を中心とする山岳地帯とその周辺の地域の自然を美しく保全すると共に、健全なレクリエーションの場として良好な環境の保全に寄与するため、ごみ持ち帰り運動を推進することを目的として、昭和五十三年NPO法人丹沢自然保護協会が始めた丹沢大山国定公園を中心とするごみ持ち帰り運動が母体となり、二十七の企業・各種団体及び行政機関等の協力の下設立され、当市においても、企業・各種団体等の協力により、市内に設けてある8つのハイキングコースを中心にごみ持ち帰り運動を実施してきました。

当市は丹沢大山国定公園と富士山麓に源を発する清流相模川、丹沢山麓より流れ出る中津川・小鮎川等有数の河川に恵まれ、その流域には市域の二〇％（一八・八km²）に及ぶ豊かな里山が存在し、多くの動植物が生息しており、その数は分かっているだけでも動物が二五〇〇種類、植物が一〇〇〇種類を超えています。また、丹沢大山山地に連なる山麓の豊かな緑が、市内から望む景観の背景となり、市民を始め訪れる人に四季折々の彩りと安らぎを与えています。その自然が美しい里山地域の七沢地区は観光資源の宝庫であり、ブナやモミの自然林、谷太郎川の清流や緑に抱かれた美しい幻の滝「白滝」があります。そして区域内には、県立自然環境保全センター、七沢自然教室、弁天の森キャンプ場（平成二十四年四月から十一月三十日まで休場中）など、自然と調和した施設にも恵まれて訪れる人も多く、平成二十二年度の観光客数は約三八〇万人にもなっています。このような状況下において、貴重な観光資源を保全しつつ活用することを今後どのようにして取り組んでいくかが課題であり、そのためにも、地元さまざまな団体・企業や個人が協力し合うと共に環境美化意識の向上をお互いに深め合い、パートナーシップによる連携を図ることが重要であります。身近なところで豊かな自然にふれあうことのできる当市では、市民を始め、地

元の企業や環境ボランティアにより活動が展開されるなど自然に対する関心が非常に高くなってきています。そのような経緯のなかで当市において第三十四回の中央会場として開催されました。当日は晴天に恵まれ、中央会場である東丹沢七沢観光案内所から、ハイキング愛好家、地元自治会各団体や企業の方々、そして神奈川県自然公園指導員も含め総勢一一九名の方々がごみ袋を手に、約五kmにわたり見城ハイキングコースを歩きながらごみ拾いを行い、約二時間半の道程作業で可燃ごみ一三・二kg、金物・カン類五kg、ガラス・ビン類四・六kgの合計二二・八kgを回収することができました。

今回の美化清掃を通して感じたいことは、未来を担う子供たちに少しでも自然の宝庫を残し継承していくことが、私たちの努め役割ではないかと言ったことです。しかしながら、一部の心無い人々の行動により自然破壊されているという現実。この現実から目をそむけずに真摯に受け止め、次世代を担う子供たちのために、私たちは自然の宝庫である丹沢の維持管理をして、いつま



でも大切にして守り続ける努力をしていかなければならないと実感いたしました。最後になりますが、今回のクリーンキャンペーンにあたり大勢の皆様や各種団体に御賛同と御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。また、丹沢大山クリーンピア21の発展と関係者の皆様の御健勝を御祈念申し上げます。どうもありがとうございました。

NPO法人みろく山の会

清掃・登山道整備活動について

会が出来てから三十年間、会員による丹沢大山でゴミの収集活動をおこなってきています。戦後の登山ブームで多くの登山者が利用した山小屋・売店のゴミは、当時地中に埋設処理されていましたが、表土の流失等で地表に露出したゴミが目につくようになり、会単独または他の登山団体と共同で回収

作業を実施したこともありました。平成十八年から清掃に大倉尾根の登山道整備が加わり、年一回登山道周辺及び林道周辺のゴミ回収と登山道整備を続けています。

平成二十四年三月三日、第三十回清掃・登山道整備活動は秦野戸川公園を起点に二八九名が参加しました。清掃

チームは七コースに分かれ収集したゴミは三二六kgで秦野市に処分を依頼しました。整備チームは三コースで、雨水による登山道の浸食を防ぐ水切りの設置とヌカルミを避けて登山道以外への踏込防止として岩礫の敷設をおこないました。

登山道のゴミは一時期少なくなりましたが、最近山ガールに象徴される若い登山者が急激に増えるに伴い、登山マナーなどの低下でゴミの量が増える傾向に加え、登山道以外への踏込みが目立つようになっています。

毎月の大倉尾根巡視活動では出来る限り若い登山者とのコミュニケーションを積極的に行い、丹沢大山の自然保護活動に少しでも関心を持ってもらえるように心掛けています。

少し残念なのは車の乗り入れが出来る林道の谷側に、毎年たくさんゴミが見られます。回収できる物はその都度処理していますが、引き上げや運搬ができない粗大ゴミは位置の確認と写真を撮っています。この処理方法については早い機会に秦野市と協議してい



く予定しています。今後もクリーンピア21に参加している各団体との情報交換を前向きに進め、丹沢大山の自然を次の世代に残す活動を今後も継続していきますので関係団体の皆様のご指導とご支援をお願いいたします。

(自然保護部 鈴木 茂)



登山道ヌカルミ対策



水無川河川敷清掃